



# 鷹山宇一記念美術館友の会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

令和5年3月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会

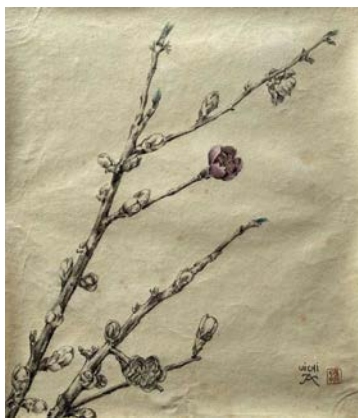
〒039-2501 青森県上北郡七戸町荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



継続すること、努力を惜しまないこと、様々なことに興味を持ち、観察し、感性を研ぎ澄ますこと。。 鷹山宇一のデッサンから窺い知る、大切なことです。

- ㊸「彼岸桜」(鉛筆、水彩) 1962年
- 中央㊹「木ノ芽」(コンテ、水彩) 1952年
- 中央㊺「紅梅」(コンテ、水彩) 1958年
- ㊻「桃花写生」(コンテ、水彩) 1962年



## ■鷹山宇一のデッサン

アトリエに残されたデッサンは画学生の頃から50代60代に描かれたものですが、季節の花々はもちろん、頂き物の蟹やふるさとの林檎、夕飯のおかずのサンマであったりと、画家の日常が目に見えるようなモチーフばかりです。



## 心構え

出会いと別れの季節がやってきた。

卒業、入学、就職、異動や仕切り直しで新天地へーなどなど、楽しくもあり不安でもあり淋しくもある「春」。逆に新しい世界へ送り出す側としては「心配」の気持ちがとても大きい。それは何時どんな時代でも変わらない「親心」のようだ。

『賢人も凡人も 卒業は楽しく懐かしく、そして悲しいものであると言う 卒業とは、ながい人生への段階の一区切りとして設けられた都合のよい制度であって、本人も社会も大変不満足ながら 卒業したことによって地位や階級をつくりあげてあるので、月並みながら私も又皆さんの卒業を心から祝福してあげたい。しかし我々のやっている絵画は、技術の錬磨を必要とする世界であって、生涯こと足りると言うことのないもので、美神の教示は努力と前進、ただ努力と前進である。卒業ムードに酔う前に、調和と不調和音の交響するこの現実社会に対決する。皆さんの心構えが出来ているのかと心配するのである』

1963年東洋美術学校の卒業制作展(銀座・ヤマト画廊)に寄せた、お祝いには辛い鷹山宇一の言葉であるが、厳しい世界を生きているからこそその優しいはなむけの言葉だと思ふ。

また、前衛や抽象絵画においてデッサンはいらぬ…という考え方に対して次のような言葉も残している。『先ずものの形をしつかりつかむこと、そしてそれになじまないことが大切である。基礎を叩いておいて、それを捨てることが出来る人がホンモノだと思う。基礎を全く無視していることは、あとになって後悔するのではないかとおそれる。基礎のない作家は生きぬき得ないのではなからうか…』そして『芸術家はどんな小さな作品にも責任を持たねばならないんだ…』

徹底的なスケッチ主義、修練の場としての「デッサン」。生涯現役を貫き、覚悟と責任を以て画家として生き、90年の天寿を全うした鷹山宇一。その生き方を人生を照らす一つの光に、一人の人間としてどう生きるか…新たな問答の世界へと旅立つ皆さんへ、今一度「努力と前進」を期待します。

(副館長・大沢田亜希子)



●●●●●鷹山宇一記念美術館新収蔵作品のご紹介●●●●●

美術館には作品や作家に関する様々なお問い合わせが寄せられます。なかでも昨年4月以降、作品を寄贈したいとの大変有り難いお話も多数寄せられました。去る12月18日、当財団では美術資料収集審査委員会を招集しご審議いただいた結果、収集方針への適合性、芸術性、真贋性共に適切であるとのお返事を頂き、本年3月4日の令和5年第1回理事會において、鷹山宇一作品4点①④⑤、戸村春樹作品②③④、ドロウイング、資料等一式⑤の寄贈をお受けすること承認されました。ご所蔵家皆様のご厚意に深く感謝申し上げますとともに、誌面を借りてご紹介させていただきます。



■鷹山宇一の1930年は、特筆すべき出来事が盛り沢山の年であったと言えます。上京後3年を経て、画家としてどう生きるべきか？当時の日本洋画界におけるフォーヴィスムとシュルレアリスムの狭間で試行錯誤の時代でもありました。①と②は厚塗りで重厚なフォーヴな作品。どちらも60号という大きさ、特に人物を主題にした作品は珍しく、いずれも何らかの展覧会出品作と考えられます。同じこの年、二科展へ初入選を果たしていますが、こちらはシュルレアリスム風の木版画。以降は終戦前後まで木版画家として認知されていた鷹山です。油彩画と距離を置くきっかけとなった作品なのかも…と、想像は膨らみます。今後の調査が楽しみです。

■③「高原の馬」は南部駒の産地・七戸町で生まれ育った鷹山宇一ならではの、馬をモチーフにした、穏やかな時の流れを感じさせる優しい作品です。同郷のご所蔵家様が長年大切にされてこられました。故郷と画家に寄せる親愛の情を感じずにはいられません。■「遊蝶花」です。黎明の空の美しさをこれほどまでに知る画家はいないのではないのでしょうか。明けゆく都会の町並みも背景に描かれています。小品ではありますが鷹山宇一の宇宙がしっかりとここにあります。

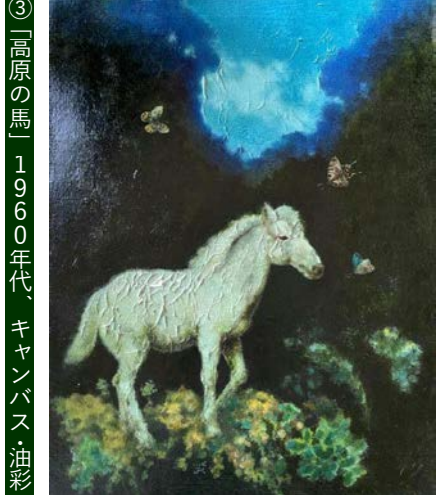
■⑤昨年の特別展でもご紹介した戸村春樹の銅版画を中心に、アトリエに残されたドロウイングほか作品、資料一式をご寄贈いただきました。画家の人間性、品格がそのまま表されたと言っても過言ではないその作品は、ご来館の皆様へ深い感動を与えてくれました。一人でも多くの方々に知っていただきたい作家であり作品です。当館から全国へ発信し、ご紹介して参ります。



① 「都会風景」(仮題) 1930年、キャンバス・油彩



② 「黒猫を抱く女」(仮題) 1930年頃、キャンバス・油彩



③ 「高原の馬」 1960年代、キャンバス・油彩



④ 「朝の花」 1990年代、キャンバス・油彩



⑤ 「メゾチント」はフランス語でマニエール「黒の手法」とも訳されます。戸村春樹が刻んだ漆黒の世界はまさに命がこえてきます。清らかな心を以て、そして是非耳を傾けていただきたい作品です。左は代表作「帰巣」1987年



# コンドウアキのおしごと展

作家生活 20 周年記念

～「リラックマ」「うさぎのモフィ」から「ゆめぎんこう」まで～

2023年 4月 15日(日)～6月 18日(日)

「リラックマ」の原作者、コンドウアキの最新

絵本『ゆめぎんこう』は、

ペンギンの

ぺんぺんが

営む「夢」を

扱うお店が

舞台。そこで

売られている

のは、アメ

になつた夢の

数々です。ア

メを買いに来

るお客さま、夢

を売りに来るお

客さまとのふれ

あいの中でぺん

んが体験する夢の世界が、繊細な色彩

と柔らかな優しい言葉で表現されて

います。

絵本制作のほかに、キャラクターデ

ザイナーとしても活躍する彼女は「リ

ラックマ」をはじめ、「うさぎのモフィ」

(世界の30以上の国や地域でアニメ

ーションが放映されている)、「ウーと

ワー」「おふとんさん」など、世代を超

えて多くの人々に愛されているキャ

ラクターを生み出しています。



「リラックマ」

© 2023 San-X Co., Ltd. All Rights Reserved.

コンドウアキの作家生活 20 周年を記念した本展では、デビュー作『木からおりたミカン』(みかんぼうや)から、最新作となる『ゆめぎんこう』まで、コンドウアキ作品を幅広く、網羅的に紹介します。どこか安心するような親しみのあるキャラクターとともに、日常のなにげない愛おしい時間を届ける作品の数々をお楽しみ頂けたら幸いです。



「うさぎのモフィ」

© aki kondo/SCP

## 特別企画

「ゆめぎんこう」ではぺんぺんがお客様の夢を買って“ゆめのアメ”に変えて瓶に貯えています。

あなたが最近見た面白い夢、怖い夢、悲しい夢、どんな夢もアメと交換し、その夢を瓶の形をしたゆめ伝言板へ掲示します。

コンドウアキ  
1997年、文具会社デザイン室内社。「みかんぼうや」「リラックマ」などのキャラクター原案、商品デザインなどを担当。2003年、退社後フリーで活動を行う。主な作品に「うさぎのモフィ」「ニャーおっさん」「おふとんさん」など。



「ゆめぎんこう」

© aki kondo

コンドウアキのおしごと展 作家生活 20 周年記念  
～「リラックマ」「うさぎのモフィ」から「ゆめぎんこう」まで～

【会 期】 令和5年4月15日(土)～令和5年6月18日(日)

【休館日】 毎週月曜日

【開館時間】 入館時間 10:00～18:00 (最終入館 17:30)

【入館料】 一般 1000 (800) 円、高校・大学 500 (400) 円、小・中学生無料

※ ( ) 内は 20 名以上の団体割引、前売券料金※その他各種 10%割引

※4/14(金)まで前売り券発売中!

iJTB チケット取り扱いのコンビニ各店にてお求めいただけます。

iJTB 商品番号 0262240

★展覧会会期中ワークショップも開催します。  
詳しくはHPで随時お知らせします。

3 / 11 (土) ~ 3 / 26 (日)  
第82回国際写真サロン展



国内では最も権威ある写真コンテ  
ストとして知られ  
る国際写真サロ  
ン展(朝日新聞社、全  
日本写真連盟主  
催)。写真芸術の最

高のものを集めて展覧会をするとい  
う趣旨で、応募作品の内容に制限はな  
く、プロ・アマ問わず応募できるのが  
特徴です。今回の82回展では海外部門  
5、659点、国内部門3、617点  
の応募の中から海外部門55点、国内  
部門45点が選ばれました。



▲「国際写真サロン展」の会期中、ス  
ペイン陶器コレクションの展示も行  
いました。スペイン各地から収集さ  
れたこれらの陶器は、実際に生活の  
中で使われてきたものです。当時の  
スペインの人々の暮らしを想像しな  
がら鑑賞するのも楽しいですね。

令和5年度

美術館スケジュール

※変更になる場合がございます。

コンドウアキのおしごと展

作家生活20周年記念

「リラックマ」「まぎのモリ」から「ゆめぎんこ」まで

4 / 15 (金) ~ 6 / 18 (日)



七戸町立鷹山宇一記念美術館30周年記念  
青森放送開局70周年記念  
模型のタミヤがやってきましたPart3(仮称)

7 / 8 (土) ~ 9 / 3 (日)

2019年のPart2に続く3回目  
の開催です。更に楽しくパワーアップ  
した「タミヤ展」をお届けできるよう  
企画中です。

第9回東北障がい者芸術全国公募展  
青森展(予定)

10 / 21 (土) ~ 11 / 12 (日)

障がいのある人の芸術活動の普  
及と振興を図ることを趣旨に、社  
会生活において何らかのハンディ  
のある方を対象に、自らが制作し  
た芸術作品(絵画・彫刻・手芸な  
ど)を全国から公募し、日本国内  
外で活躍する審査員による厳正な  
審査を経た魅力あふれる作品を展  
示します。青森放送(株)、(公社)  
東北障がい者芸術支援機構主催、  
当財団共催により開催します。

第22回鷹山賞児童作品展  
第22回JOVA世界児童画コンテスト  
優秀作品展

11 / 26 (土) ~ 1 / 8 (日)

青森県の小中学生に公募する絵画  
コンテスト「鷹山賞児童作品展」から  
入賞入選作品を展示します。併せて、  
地球環境をテーマにした「地球環境世  
界児童画コンテスト」から優秀作品に  
選ばれた世界各国の子供達の作品を  
紹介します。

第83回国際写真サロン展

3 / 9 (土) ~ 3 / 24 (日)

1927年に始まった国際写真サ  
ロン展(朝日新聞社・全日本写真連盟  
主催)の第83回展です。世界各国から  
出品され、写真表現や画像加工を駆使  
し、独創性と芸術性に富んだ写真作品  
を展示します。

絵馬館、  
展示替えしました!



▲絵馬館の展示替えを行いました。  
美術館にご来館の際は、絵馬館も是  
非、ご覧下さい。

令和5年度も皆様の「ご来館、  
お待ちしております。」



令和4年度 七戸町立鷹山宇一記念美術館  
美術館あーとくらぶ



1月〜3月に開催した「美術館あーとくらぶ」の様子をご紹介します。

クレパスで絵を描こう

1月29日(日)は、「クレパスで絵を描こう」です。これまでワークショップでは、クレパスを使って、指で擦ってチョークアート風の作品や、スクラッチで蝶を表現した作品を完成させてきました。



今回は今までの技法を用いて、鷹山宇一の「早春賦」の再現に挑戦です。山の色を指で擦って表現します。花や蝶がいる場所はスクラッチを用います。そして、描かれている蝶について語り合いながら、手を動かします。完成した作品の奥深い色はまさに「早春賦」を思わせます。工程が少し多くても最後までやり遂げることができました。



七宝焼きをしよう

2月26日(日)は、「七宝焼きをしよう」です。七宝焼きは人気のため、今年度から2回開催することにしました。



銅板にガラスの粉である釉薬をのせ750℃以上の温度で焼成します。温度や釉薬の厚さやのせ方で同じく焼き上がらないのも七宝焼きの楽しさの一つ。様々な形のペンダントやブローチを選び、世界にたったひとつしかない自分だけの作品が完成しました。



デコパージュをしよう

3月19日(日)は、「デコパージュをしよう」です。デコパージュは特殊な糊でペーパーナプキンを貼ってコーティングするものです。たくさんあるペーパーナプキンの中から



3〜4枚を選び絵柄を組み合わせ、A4サイズが入る大きなトートバッグを装飾しました。初めての方もいらっしやいましたが、素敵な春を思わせる作品が出来上がりました。暖かくなってきた今日この頃、できあがったバッグを持ってお花見に出かけたいですね！

出前講座「せんべいストラップづくり」

-明照保育園へ行ってきました！-

3月14日(火)に「せんべいストラップづくり」の出前講座のため、明照保育園に行ってきました!!  
粘土で本物そっくりのせんべいをつくりたいです。「ママも粘土です。細かい黒く乾燥した粘土をはさみで切ると「ママ」になります。「ママだー」子どもたちの反応は新鮮でした。はさみを使う作業も細かな作業も集中して行うことができました。

卒園する12名の園児と先生と楽しいひとときを過ごしてきました。「卒園おめでとう」です。

せんべいは食べないでね!



【令和4年度を振り返って】

今年度1月から、美術館の「2階工房」になんとかいつものワークショップの空気に戻ってきました。多くの方のご参加で、充実した時間を過ごすことができましたことをうれしく思います。

来年度もワークショップが皆さまの美術に親んでもらうきっかけの場となることを願い、様々な講座を計画していきたいと思っております。

来年度もどうぞ「美術館あーとくらぶ」をよろしく願い致します。

今号、いつもどこかにいるハリネズミの「ハーリー」はお出かけ中です。次号どこかで・・・

# 美術館日誌

## ◆1月◆



- 3日(火) 仕事始め
- 11日(水) 汚水ポンプの汚水汲取
- 13日(金) 電気設備定期点検〈佐藤電気〉
- 14日(土) 会計定期確認
- 15日(日) 近田会計事務所山本氏
- 17日(火) 七彩会油絵教室〈2F工房〉
- 18日(水) 当館HPリニューアル打合せ
- 19日(木) 絵馬懇談会打合せ
- 22日(日) 第21回鷹山賞児童作品展最終日
- 24日(火) 展示替え、館内整備休館

- 25日(水) 事務室照明器具交換工事
- 29日(日) WS「クレパスで絵を描こう」
- 31日(火) 公民館講座打合せ

## ◆2月◆

- 2日(木) 非常用放送設備工事
- 7日(火) 電気設備定期点検〈佐藤電気〉
- 9日(木) 自動ドア定期点検
- 10日(金) 当館HPリニューアル打合せ
- 14日(火) HP用館内撮影
- 17日(金) 監視用カメラリニューアル工事下見
- 21日(火) タミヤ展打合せ

- 22日(水) 絵馬懇談会
- 26日(日) WS「七宝焼きをしよう②」
- 27日(月) タミヤ展打合せ
- 28日(火) しちのへ春まつり連絡会議
- 29日(水) 観光情報館2F
- 30日(木) 非常用放送設備検査
- 31日(金) 中央消防署

## ◆3月◆

- 2日(木) 理事会等打合せ
- 3日(金) ヤクルト(株)より車椅子寄贈
- 4日(土) 第一回理事会
- 7日(火) 写真サロン看板設置
- 10日(金) 電気設備定期点検

- 11日(土) 写真サロン展初日
- 12日(日) 七彩会油絵教室
- 14日(火) 出前講座
- 17日(金) 当館HPリニューアル打合せ
- 18日(土) 第一回評議員会
- 19日(日) WS「テコパージュをしよう」
- 23日(木) タミヤ展打合せ
- 26日(日) 写真サロン展最終日
- 27日(月) 展示替え休館
- 28日(火) 男子トイレ



ヤクルト(株)様より車椅子を頂きました。



作家三浦哲郎  
新婚の地を訪ねて  
岩手県一戸町編

八戸市 照井壽一

作家三浦哲郎（1931〜2010年）が東京都豊島区駒込の生寮で暮らしていたときに、深川や浅草で交際を深めた女性を伴って岩手県一戸町へ帰り、昭和31年1月、卒業までとは別居することにして、夫哲郎は、世田谷区三宿町に間借り、妻はそのまま留まつて両親、姉と一年ほど共に暮らしたという新婚の地と小説に描かれている風景に触れたくて一戸町北館地区を2022年秋に訪ねました。



「忍ぶ川」文学碑と岩瀬橋近景



万代橋：岩手県道274号線（旧国道4号）に架かる橋。昭和7年（1932）竣工。戦争を乗り越え風雪に耐え、いまだ現役。

八戸市から馬淵川沿いを南下、南部町吉村からは国道4号を利用して青森県南随一の霊峰久井岳に見送られながら三戸町を通り抜け、県境に架かる青岩大橋を渡り二戸市に入り、金田一大橋、馬仙大橋を渡って目的地「いわて銀河鉄道線一戸駅」に到着。  
早速、三浦哲郎文学散歩ガイドマップを片手に駅前商店街を通り、「しのぶ橋」橋名板は哲郎氏本人の直筆）を渡って岩瀬橋右岸たもとに町内外の愛好者によって、昭和53年11月に建立された芥川賞受賞作「忍ぶ川」文学碑を見学しました。  
碑文は作品の一部、さらさらとした粉雪が降る駅での母の迎えと初夜の日に一枚の丹前にくるまづて、二人で雪の野道を通る馬橋を見ている場面が銅版に浮き彫りにされている場面が銅版に浮き彫りにされています。碑に三十

トンの花崗岩だそうです。町に沿って流れる馬淵川河畔の逍遙を好んだという哲郎氏に倣い、岩瀬橋下流、岩手県道274号線（旧国道4号）に架かる万代橋までの両岸を小説「妻の橋」や「わくらば」等に描かれた場面を思い浮かべながら歩いてみました。

岩瀬橋のもとに続く道では「新妻が買ひ物籠を提げて駅前商店街に急ぐ姿」、万代橋から川原に降りる緩い坂道では哲郎氏が風呂好きの父のお供をして銭湯松乃湯（平成18年に廃業）に通う姿を、また木橋だったころ（馬通行止）と書いた立札が出ていた岩瀬橋を家族で一列に並んでそりそりりと渡るとき微笑ましい場面などを勝手に想像しながら、河畔の散策を楽しみました。馬淵川河畔から町内に足を運ぶ、哲郎氏が病母を見舞うためと道草の記録「旅雁の道草」の舞台「県立一戸病院」跡地を訪ね、一戸駅に向かいました。駅構内の「カフェいちのへ日和」で



万代橋方向、対岸北館地区

イチゴ入りのシロップを飲んだら、水一杯のパンを眺めながら帰る途中、家に帰るまで

木橋だったころの岩瀬橋を舞台に小説「妻の橋」を昭和46年「新潮」に発表。



「しのぶ橋」から「岩瀬橋」を望む

『かつてここに木の橋ありき 妻のちびた下駄の音が 邪な川原の我を撃つかの如く降り注ぐ 橋脚高き橋なりき』

（エッセイ集『自作への旅』所収 「妻の橋」より）

県境を越えるのは久方ぶりでしたが、哲郎氏が新婚時代を過ごした北館地域を歩きながら、小説に描かれた原風景を訪ねた秋晴れの一日は、心に残る日帰り旅行になりました。

参考文献等

- 時のせせらぎ 著者三浦哲郎 株式会社講談社、自作への旅 著者三浦哲郎 デーリー東北新聞社、三浦哲郎文学散歩ガイドマップ 三浦哲郎文学を読む会、その他

# 『貸切バスで巡る山形県・福島県美術鑑賞の旅2日間』

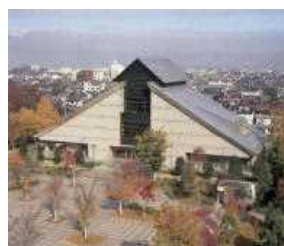
令和5年度研修旅行についてご案内致します。

新型コロナウイルス感染症への諸対策も緩和されてきておりますが、なお今後の推移を慎重に見守りながら、令和5年度秋季研修旅行を計画致します。研修先として山形県・福島県内の美術館を貸切バスで効率よく巡る旅を1泊2日で実施できるよう計画致します。

日程等の詳細を決定して、6月発行の会報第111号で募集開始の予定です。



福島県立美術館  
(福島市)



山形美術館  
(山形市)



諸橋近代美術館 (福島県)

2000年、友の会初の海外研修旅行でスペインのフィゲラスにあるダリ美術館を訪れ、サルバドール・ダリの作品を鑑賞致しました。諸橋近代美術館は、アジアで唯一のダリ所蔵美術館です。お楽しみに!



鶴ヶ城  
(会津若松市)

## 令和5年度 秋の研修旅行案内

日時:令和5年10月初旬～中旬 1泊2日

研修先:山形県・福島県内の美術館ほか

募集:令和5年6月発行 会報第111号で募集

参加費:未定

募集人員:先着30名(最少催行人員は15名)

申込締切日:令和5年 8月初旬

旅行説明会:令和5年8月下旬から9月上旬

申込先・問い合わせ先:鷹山宇一記念美術館

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

### ○賛助会員 特典費

- ① 一般会員特典に加えて
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈
- ③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

### ○特別会員 特典費

- ① 一般会員特典に加えて
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈

### ○一般会員 特典費

- ① 無料入館券3枚、会員証提示により入館料2割引
- ② ミニシアムグッズ1割引
- ③ 研修会、講演会への招待、優待
- ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤ 会報の配布

### ○友の会の事業内容

- ① 県内外美術館研修視察旅行(年2～3回)
- ② 海外美術館研修旅行
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他(美術講演会の開催等)

## 新規会員入会お誘いのお願いと 友の会会員登録更新のお願い

令和4年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。新年度も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んで頂ける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

## ☆ 会費納入について

美術館窓口、郵便振替に加え下記口座からも納入出来るようになりましたので活用下さい。  
○銀行名 青森銀行 七戸支店  
○口座番号 307337  
○口座名義 鷹山宇一記念美術館友の会  
会長 下山恭美子

### 編集後記

会報第110号をお届けします。本年度も皆様のご協力を頂き会報をお届け出来たと共に深く感謝申し上げます。令和5年卯年、前向きに飛び跳ねるウサギにあやかり、会報作成に積極的に取り組んでいきたいと思っております。今後とも美術館の応援と会報発行へのご協力をお願い申し上げます。  
(照井壽一)